



高橋 きく子 議員

問 「旧道の駅」施設は国道113号線沿いであり、非常に不安視されている。施設の定期的な点検等は実施しているのか。

答 「旧道の駅」施設の定期的点検等は行っていないが、駐車場の清掃や除草作業を委託する中で目視による確認を行っている。



▲七ヶ宿ダム

問 施設の再利用案が示された時期もあったが、その後のどのような状況となっているのか。

答 今までに再利用案を議会及び町民の皆さんに具体的に示したことはありませんので、その後の状況には答えられません。

問 町内には空き家が増え、各集落においても問題となっているが、「旧道の駅」施設の解体処理も含めた計画を示すべきではないか、または、ネット社会の環境とコロナ禍等への対応から環境的に再利用を図ることも考えるべきでは。

答 今まで「旧道の駅」施設は解体するのではなく、何らかの活用ができないか関係各方面に働きかけを行ってきたが、その後の展開に至っていない現状にあるので、できるだけ早いうちに保存か解体かについて方針を決定したい。



▲旧道の駅

問 「旧道の駅」への対応について

答 保存か解体かできるだけ早く決定する

第一期小関町政とほぼ同時に始まった「地方創生」制度への対応と、町政の大きな柱として賑わい拠点の整備や担い手住宅等、建物に特化した政策が進められて来た。一方では今日においても「旧道の駅」施設の対応が示されていない。このことから以下の点について伺う。

問 町内の自然を生かした観光産業の振興策は

答 看板点検やボランティア案内など検討したい

問 玉の木原の水芭蕉群生地や横川のやまびこ吊橋など、町内の自然を活かした観光エリアに設置してある看板は機能していないのではないか。

答 観光案内の看板はそれぞれの観光エリアのイメージを考慮して設置しているが、老朽化した看板などを含め総点検し一目で観光地と分かる看板の設置を検討したい。

問 町内の観光スポットに精通した総合的な観光案内のできる人材を複数育成し、多くの来町者に喜んでもらえる体制づくりをするべきではないか。

答 町のイメージキャラクターのゆり太郎が主にガイド役をしているが、今後外部委託やボランティアによる観光案内も考えたい。



▲水芭蕉駐車場看板

問 水芭蕉群生地において花が見ごろの頃は駐車場の内、車両の接触事故や場内の忘れ物、トイレの管理不足が起きている。行政による対策が必要ではないか。



▲見ごろの水芭蕉

答 水芭蕉群生地に設置している駐車場やトイレの管理は、湯原自治会に委託しているのもしっかりと確認し対応したい。

問 以前スキー場に七ヶ宿ダム湖の看板があり、多くの来町者に水源の町としての役割がしっかりとアピールされていた。町内の観光エリアに同様の看板を設置するべきではないか。

答 以前、スキー場に設置されていた看板は、国(当時の建設省・現在の国土交通省)がしたのか町が独自に設置したのか確認しないと分からない。

問 水源の町として、森林整備や遊休農地の管理など積極的な環境整備による町のイメージを図る必要があるのではないか。

答 景観を損ねる遊休農地などもあるが個人の所有地なので町が勝手に整備できない。現在、各地区に農地管理している集落協定があるので協議したい。



高橋 浩之 議員